

アジアコスモポリタン賞受賞記念 奈良フォーラム2023

2023年1月19日～20日に、アジアコスモポリタン賞の受賞を記念する「アジアコスモポリタン賞受賞記念奈良フォーラム2023」が開催された。本賞は、東アジア域内における文化面・経済面での地域統合、域内の格差是正、持続可能な成長社会形成等の点で優れた貢献が認められた個人・団体に対し、東アジア・アセアン経済研究センター（ERIA）が贈呈する国際賞であり、今回のフォーラムは、第5回受賞を記念して開催され、5名が受賞された。

大賞：アンヘル・グリア 前OECD事務総長

経済・社会科学賞：マリ・エルカ・パンゲストウ 世界銀行専務理事

文化賞：隈研吾 建築家 東京大学特別教授・名誉教授

メモリアル賞：故 李 御寧 韓国初代文化部長官

メモリアル賞：故 ポンシアノ・サバド・インタル 元ERIAシニアエコノミスト

【1月19日】

■ 開式

オープニングアトラクションとして、NPO法人奈良能による能公演「石橋（しゃつきょう）」の公演が行われ、豪華絢爛な獅子が力強く舞った。

続いて、ERIA事務総長の西村英俊氏より開会の挨拶として、本賞の趣旨とともに、「アジアこそが世界の発展の中心地であり、私たちアジアに住む人々はコスモポリタンであるべきだ」という精神は、ここ奈良から広がっていくものと確信している。」と述べられた。また、来賓を代表し、政府代表 関西担当特命全権大使の姫野勉氏が、「大賞を受賞したアンヘル・グリア事務総長は特にアジアを含む世界に目を開かれていた。グリア事務総長がおられたからOECDとERIA、そして東南アジアをはじめとするアジアとの関係が開いた。」と祝辞を述べられるとともに、アンヘル・グリア氏の元同僚である、奈良県出身の吉川元偉元国連大使からのメッセージが紹介された。

■ 授賞式

第5回受賞者の5名は、東アジア16か国を代表する経済・政策研究機関からなる推薦委員等によって候補者として推薦された人物であり、選考委員による選考を経て受賞が決定された。壇上では、各受賞者への正賞として吉野杉の楯が贈られ、副賞として前回の文化賞受賞者であるノグチエコ氏のトロフィーと吉野檜のあかりが贈呈された。

大賞を受賞したアンヘル・グリア氏は、「政策を実際の行動に結び付ける活動こそが人々の幸福につながっている。今後より良い政策、そしてより良い人々の幸せのために努力していく。」と喜びを語った。

経済・社会科学賞を受賞したマリ・エルカ・パンゲストウ氏は、「グローバルな協力、そして皆がつながっていくということがいかに大事かという認識の下、賞を頂けたものと思う。」と語った。

文化賞を受賞した隈研吾氏は、「文化の面、あるいはデザインの世界でも、今、東アジアに対して、世界の大きな注目が集まっている。これを励みにさらに東アジアの文化を発信していきたい。」と語った。

メモリアル賞を受賞した李御寧氏の夫人・姜仁淑氏は、「美しい伝統を持った奈良に来て、主人の代わりに私が賞をもらうことになり、とても感激している。主人の代わりに感謝の言葉を申し上げる。」、同じくメモリアル賞を受賞したポンシアノ・サバド・インタル氏が所長を務めていたフィリピン開発研究所（PIDS）の現所長・アニセト・オルベタ氏は、「彼の魂は今も受け継がれている。そしてその栄誉を私も大変うれしく思う。」と語った。

■ 受賞記念フォーラム

奈良県の荒井正吾知事より、「第5回授賞式が行われることを大変光栄にうれしく思っている。今回の機会を得て、アジアと世界の将来について考えることができればと思う。」と挨拶が述べられた。

続いて、アジア太平洋経済社会委員会（ESCAP）事務局長・アルミダ・サルシア・アリスジャバナ氏が「アジア太平洋地域における効果的な開発協力に対する信頼の構築」と題して基調講演を行い、「経済の安定、気候変動への取り組み、持続可能な開発は全て、各国の協力なくしては成し得ない。複雑な問題の解決方法にはさまざまなアプローチが考えられるので、まずは共通の関心事を見いだし、そこから協力を始めることが効果的である。その後、信頼関係を築いた上で残りのギャップを埋めていき、全ての問題解決につなげていく。」と語った。

■ 受賞記念講演

大賞を受賞したアンヘル・グリア氏が、「2023年アジアの展望とERIAの役割」について、「アジアの成長の鍵は、貿易を増やし、経済開発を促進することである。さまざまな問題を解決する答えは、多国間主義である。それによって国際協力、自由貿易、投資がなされ、思想、表現、性、宗教、自然における多様性が守られる。」と語った。

次に、経済・社会科学賞を受賞したマリ・エルカ・パンゲストウ氏が「分断された世界における多国間主義の役割」について、「世界は今、エネルギー危機や食料危機などさまざまな課題を抱え、分断の時代を迎えている。多国間協力こそが、これらの課題への解決策となる。」と語った。

また、文化賞を受賞した隈研吾氏は、「アジアからの新時代」について、「古くから東アジアでは、単に自然を大切にすることでなく、それを循環させるという、持続可能性を志向する思想と知恵があった。これからの文化や経済は、このように人間と自然が共につくっていくものとなるだろう。」と語った。

最後に、メモリアル賞を受賞した李御寧氏とポンシアノ・サバド・インタル氏を偲んで、奈良県の荒井正吾知事とERIAの西村英俊事務総長が生前の2人のエピソードを交えて、その功績を振り返り、感謝の意を述べた。

【1月20日】

■ 教育プログラム（受賞者による特別講義）

大賞を受賞したアンヘル・グリア氏による「特別講義」が奈良県立大学で学生を対象に行われた。「国際税制をどう変えるか」をテーマに、「改革を起こすときにまず考えなければいけないのは、多くの問題の中でどれが一番大切か、その問題を一つずつ解決していくべきなのか、同時に全て解決すべきなのかということだ。そして情熱と野心を持ち、工夫して取り組んでいかねばならない。」と述べ、集まった学生等参加者が見識を深めた。